

## CSW68現地参加レポート：このエネルギーの終着点はどこにあるのか

JAWWユースレポーター 千葉奏美

〈はじめに〉

私が今回このレポートを通じて一番伝えたいのが、CSWの会場を渦巻く大きなエネルギーとお祭りのような明るい雰囲気だ。これは、現地参加をしなければ受け取ることができないであろう。CSW会期中、国連の建物内は活気があふれていた。そのくらい世界各国から強い熱意と志を持った方々が集まっていた。このことだけでも、私は、現地参加をした1人として伝えたいと思う。ジェンダーの不平等という大きな課題を解決したいと立ち上がっている市民が、世界中にたくさん存在しているということだ。このエネルギーがある限り、私たちの世界は間違いなく少しでも前進することをやめないだろう。そんな、私に希望を持たせてくれるような時間でもあった。しかし、このエネルギーは、CSWの会期限定なのだろうか、CSWを毎年繰り返していくことにどんな意味があるのだろうか、そんな疑問も浮かんでくる。本稿では、その詳細について、自分の主観的な意見と共に述べていきたい。



〈タウンホールミーティング〉

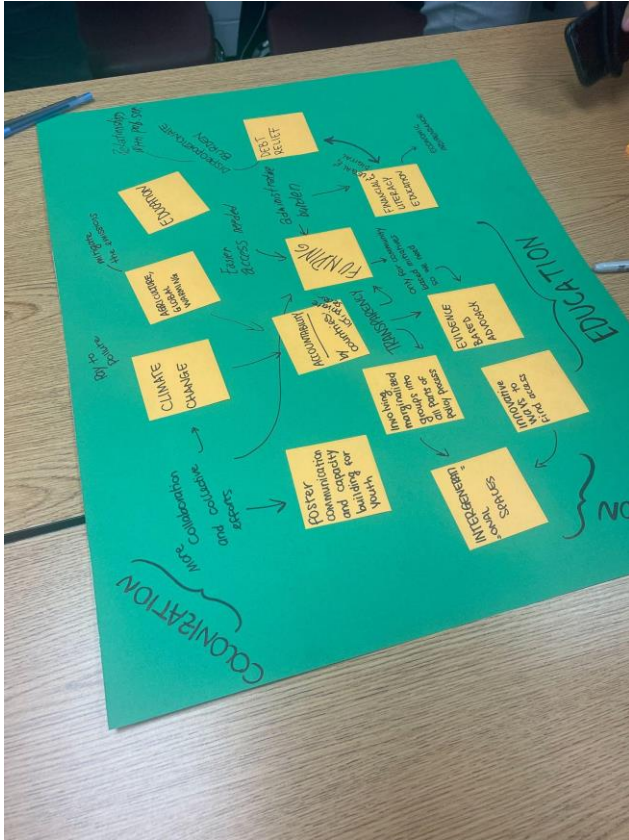
このミーティングでは、初めて事務総長の声を生で聞くことができた。ファシリテーターも含め、この会合を楽しもうと、ところどころジョークを交えながら進行している様子が印象的で、国連の組織文化を改めて再認識することができた。そんな中でもQAセッションでは、ガザ地区やウクライナの状況を受けて、国連の役割を批判する声や地方における女性の権利を訴える声など、市民の生の声をそのまま届けている様子が見受けられた。事務総長もその声を受け止め、自分の言葉で質問に答えていた。様々な背景をもった様々な考えが錯綜する中、何が正解で、どこに向かってどのように進めば良いのか、そ

それぞれの状況によって解は無限にあると思うが、このように、一堂に介して問題意識を共有することに意味があるのだと感じた。



#### 〈ユースフォーラム〉

世界各国のユースが有志で集まり、2日間に渡り、ディスカッションやワークショップを通じて意見交換をする場が設けられた。帰国日の都合上、私は1日だけ参加した。そこで私が最も感じたのは、各ユースの憤りだった。中には複数回にわたってCSWに参加している若者もおり、彼らが語っていたのが、若者が意思決定の場にはいかに参加できていないか、ということだった。ユースフォーラムで私たちが設けられている場は、かなり形式的で、私たちがそこで意見を出しても何にも反映されない、というフラストレーションが溜まっているということを強く語っていた。まさしくその通りであり、ユースの発言の場、ディスカッションの場は用意されているものの、それらを合意結論に反映することは未だできていない。ユースが派遣されることにどんな意味があるのか、私たちが自己負担でお金を出して参加することが、CSWにどのような影響をもたらしているのか、今一度考えさせられる機会となった。ぜひこの問題意識は、次年度以降にも引き継いでいってほしい。



〈最も印象的だったサイドイベント〉

アフガンの女性の勇気ある声を生で目の前で聞き、生まれた環境によってこんなにも不平等が生じてしまい、苦しめられなければならないのかということに、ただただ胸が痛かった。女性が紛争によってさらなる脆弱性をもち、いかに暴力や武力と常に隣り合わせにあるのか、状況を肌で感じたためだ。対話の中で、女性の平和、安全保障は優先的に取り組まれるべき事項であると明言されていたことに加え、中でも紛争地域では、女性の精神的な健康がいかに大事であるかを再認識できるイベントだった。この問題は、確実に外部からの支援が必要であるため、国際社会は大きな役割担う必要がある。彼女たちが希望を持ち続けられるような社会を一刻も早く作っていくために、自分できることはこのような経験や意見、情報を共有し、ムーブメントの輪を広げていくことだと信じて、今後も、積極的に彼女たちに耳を傾けられる機会に参加していきたいと思う。



#### 〈最後に〉

今回体感した、この熱量を未来に繋いでいくためにも、現地参加できた以上、1人の日本人の若者として、世界各国に恥じないよう、変革のためにこれからも動いていくことは自分自身の責務であると考えている。それは、CSWに初めて参加し、ジェンダー平等を実現するために世界のあらゆる地域でたくさんの方が活動している仲間がいることを実感したからだ。日本で普段生活していると、ジェンダー不平等の格差の問題を解決するために活動家や専門家が活発に動いていたり、予算が用意されていたりといった現状は私が知る限りではあまり見られないように思える。しかし、他の国では、資金援助や政策など、社会を変えるための取り組みが先鋭的に進んでおり、日本が学び、取り入れていくべき観点はたくさんあることを改めて実感した。会期後、自分には何ができるのだろうかと自問自答し、自分の無力さを痛感することも多いが、自分には今回の繋がった力強い仲間がいることを忘れずに、終わりなき問いの終着点を一緒に探していきたい。

#### 〈謝辞〉

今回の参加を通じて、一緒に現地参加をされた、JAWWの鴨澤さん、浅野さんをはじめ、現地にいらっしゃるJAWW会員の小林さん、他のNGOからこられている方々にも、ニューヨーク滞在中、たくさんお世話になりました。この場をお借りして、感謝申し上げます。そして今回の機会を通じて、繋がれたユースの方々からも、議論を通じて多くの刺激をもらえました。そして個人的には、現地でUNV時代の東ティモールの同僚にも会期中に再会することができ、とても有意義な時間となりました。この貴重な機会をくださった、JAWW会員の皆さまにも改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

